



申12号

## 2015年度年末手当に関する申し入れ

第1回交渉(主旨説明)を行う!

### 子ども手当、ベアのあり方について労使議論開始!!

**組合**

賃上げ交渉時、議論を積み残した「子ども手当」と「ベアの算出方法」についての労使議論を早急に開始することを要請する。

**会社**

扶養手当は世の中の流れもあり、変更を加える必要はある。会社が示しているベアのあり方については、職位・職責で差異があるのは不合理ではない。

**組合**

### 抑制する理由ではなく、実績に相応しい手当を求めろ!!

- ◆ 2015年度中間決算は、営業収益1兆377億円(対前年105.4%)、経常利益2324億円(113.4%)、純利益1581億円(118.6%)であり前年を大きく上回った。
- ◆ 2015年度の通期の業績見通しについて全てのセグメントで上方修正した。
- ◆ 旅行需要やビジネス需要の好材料を業績に結びつけたのは現場第一線の努力だ。
- ◆ 訪日外国人(10月9日時点)が1505万人以上に達し、3年連続で過去最高を更新している。
- ◆ 組合員の経費削減や増収の努力の結果、好成績を収めている。
- ◆ 10月の月例経済報告では、「一部に弱さが見られるが緩やかな回復基調が続いている」としている。
- ◆ 黒字企業としての社会的役割・責務を果たすべきだ!!
- ◆ この間会社は「良い時は出す」と言い続けてきたことを実行するべきだ!!
- ◆ 重大事故が続き失いかけた信頼回復のために汗を流しているのは組合員だ!!

**会社**

- 第2四半期決算は、連結・単体ともに全ての利益が過去最高。北陸新幹線開業のフィーバーや上野東京ラインの開業の効果による利用者増に支えられた。
- 強い追い風があるものの、社員一丸となった努力の結果であり、感謝している。
- 営業費用は、原油安は想定外だが、全般的に増加している。
- 通期業績予想は上方修正しているが、ピークの平成4年度の水準には大きく届かない。
- 10月の月例経済報告は「一部に弱さが見られる」とし、9月の「一部に鈍さがある」から下方修正をしている。下方修正は1年ぶりのことだ。
- 中長期的には、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方活性の減退が顕在化している。社内では、設備投資に伴う減価償却費が増し、コストコントロールが大きな課題だ。世代交代の時代で、安全で質の高い輸送を提供するため、確実な技術継承と体制の見直しが必要だ。
- 期末手当は、大局的な経営環境から業績の動向を踏まえ「コスト構造の変化、2年連続の賃金改善、公益企業」等を総合的に判断する。
- 電化柱倒壊など安全・安定輸送が厳しく問われ、信頼回復に向けて労使とも重く受け止めるべきだ。
- 重要施策の議論をしているが、スケジュール感を持って真摯に議論し妥結をしたい。

全職場からの闘いで、満額回答を勝ち取るぞ!!